

平成23年度 事業計画

財団法人 日本ハンドボール協会

平成23年度事業計画

日本ハンドボール協会は、スポーツ界を取り巻く国内・国外の環境の急速な変化に迅速に対応し、強化活動に全てのベクトルを合わせ、最大の目標であるオリンピック常時出場、世界選手権常時出場、そしてメダル獲得の実力をつける事に向けて、総力を結集して取り組んで参ります。また、ハンドボール競技のさらなる注目度アップ、競技人口のアップに向けて全員で活動を続けて参ります。

- 〔1〕強化：本年度は我々の最大の目的であるロンドンオリンピック出場権獲得に向けた大会が開催されます。そこで第一に、ナショナルチームを更にブラッシュアップし、「世界を奪い返す」、「アジア No.1 に返り咲く」ために全力で戦い抜きます。第二は、全国に定着した NTS(ナショナルトレーニングシステム)を一段と徹底させ、「JHA ジュニアアカデミー」に連結させ、ジュニアからの強化を強力に推進します。さらに、指導方針の一本化を図り、6年後、11年後に備えます。第三に指導者・スタッフの育成・拡大は急務であり、指導者の拡大・育成方針を明確にし、活動にあたります。第四に「競技者育成技術委員会」の推進により、強化システムの見直しを柱に短期・中期の具体策を明確にして活動を行います。
- 〔2〕審判：強化と審判は、目的を達成するための両輪であります。中でも国際レフェリーの早期育成は急務であります。IHF レフェリーコースに参加して、AHF 主催のレフェリーコース日本開催をベースにトップレフェリーの育成と「レフェリーアカデミー」を中心にした国際基準のヤングレフェリーの育成を最重点に取り組みます。
- 〔3〕競技：「更なる注目度アップ」を図るため「大会運営マニュアル」を基本に、各大会に積極的指導を行い、日本リーグ、企画、マーケティング、広報、各都道府県協会、各連盟とも連携し、たくさんの皆様に満足のいただける国際基準の競技大会運営に取り組みます。
- 〔4〕指導普及：「普及活動事業」と「指導者育成事業」を2本柱と捉え、成果が目に見える形で取り組みます。「小学生・中学生大会の拡大」(チーム数アップ)、「NTSとの連携・周知徹底」、「マスターズ大会の組織充実」、「車椅子大会の充実」等に取り組み、競技人口アップにつなげます。「ビーチハンドボールの組織化、大会充実」に改めて取り組み、新しい展開(ビーチゲームへの関心度の高まり)に備えます。
- 〔5〕マーケティング：大変厳しい経済・社会情勢の中、企画・広報と連携し、ハンドボールの総合的バリューを分析し、新しいスポンサーの獲得・拡大、イベン

トの企画、マスコミへのアプローチ、グッズ販売、各種権利の整理等に取り組みます。

- 〔 6 〕 国際：国際ハンドボール連盟の新体制、アジアハンドボール連盟の新体制に対応し、「アジア地域の発展」をベースに行動を展開します。しかしながら「アジアの正常化」について依然として予断を許さない状況であり、2008 年の「やり直し大会」の真の原因を忘れることなく、東アジアハンドボール連盟との結束を更に強固にし、IHF、AHF に従来の提案はもちろん、新しい提案を投げかけます。更に、IHF、AHF との関係を密にする活動を行います。
- 〔 7 〕 広報：「ハンドボール競技の注目度の更なるアップ、バリューアップ」は必須条件であります。年間広報活動計画に基づき、広報体制を見直し、タイムリーな変化に対応した広報活動を行います。
- 〔 8 〕 日本リーグ：日本リーグはナショナル強化活動のベースであり、日本リーグの充実こそが日本の目的に直結します。日本のトップゲームをたくさんのファンに披露するために「プロの興行集団」を目指します。昨今の社会情勢の変化に対応するため「新ディビジョンの拡大・育成」に今年も取り組みます。
- 〔 9 〕 財務：政治、経済、社会的価値観等の前代未聞の激変を踏まえ、収入源を想定した中期展望に基づいた予算の執行を考え実行します。
- 〔 10 〕 環境：既に社会に定着した環境問題をハンドボールとして具体的に実行・活動し、積極的に取り組んで参ります。
- 〔 11 〕 総合企画：日本ハンドボール協会の事業計画の徹底を図ります。と同時に中期スケジュールを見据えた事業計画を検討します。また、本年度はジャパンカップ 2011 を企画開催します。
- 〔 12 〕 総務：公益財団法人化に向けて、事業を滞りなく実行するために、ハンドボールに携わる役員の育成・充実と事務の整備に取り組みます。
- 〔 13 〕 組織活性化プロジェクト：社会情勢の大きな変化とハンドボール界における競技者の状況を踏まえ、既に設立なった社会人連盟の定着に取り組み、今後のハンドボール協会の基盤の充実を図ります。
- 〔 14 〕 がんばれ 20 万人会
「ハンドボールのバリューアップ」、「ハンドボール界総力をあげての日本代表応援」等の本来の目的を踏まえ、諸策を見直し 20 万人を目指します。

1. 競技力向上(強化)に関する事業

【基本方針】

「アジア、世界で戦う体力強化と強靱な精神力の強化」

1. 情報を共有化し各連盟、スクール、地域協会との連携を取り強化組織の構築を図る。
2. NTS での指導者育成、選手発掘に再注力し、ジュニアアカデミーでの育成の強化を図る。
3. 強化委員の役責を明確にし、各カテゴリー強化施策の進行状況の把握に努める。

【重点施策】

1. 体力強化プロジェクトの発足
 - (1) JISS 分析班、JHA 強化分析班と連携を図りアジア、世界対策に努める。
 - (2) 各カテゴリーヘッドコーチと連携を図り栄養、体力強化の一貫指導に努める。
 - (3) 各カテゴリーのチーム、個々の強化指導案を作成する。
2. 味の素 NTC を活用したアカデミーでの教育
 - (1) 専任コーチの役割分担を明確化する。
 - (2) 定期的な海外遠征と国内強化合宿を実施する。
 - (3) 味の素 NTC と連携を図り栄養管理の下、体力向上に努め指導及び各競技団体との連携を図る。
3. 日本リーグチームとの連携強化
4. 情報・科学サポート
5. 医事専門委員会のサポート
6. アンチドーピングの徹底

2. 普及・指導に関する事業

普及関係

【基本方針】

1. 少年チーム (U-15, U-12) の創設と運営の活性化を促進する。
2. 小学校教科ハンドボールの普及と授業実践の推進を図る。
3. 生涯ハンドボール体系を確立させる。

【重点施策】

1. 地域における指導者の掘り起こし
2. 少年大会運営、チーム経営の基本的理念の検討
3. 研究大会充実のための授業実践者の連携
4. 小中学生の基本的な指導内容の提示
5. ビーチハンドボールの組織整備

6. マスターズ委員会の組織整備

指導関係

【基本方針】

1. 指導者の育成（各指導者養成講座の開設）を推進する。
2. 海外情報収集を海外派遣選手団等より積極的に行う。
3. ブロック・都道府県指導委員会の活性化を促進する。

【重点施策】

1. 公認指導者組織の整備(養成・研修)
2. U - 19までの指導体系の確立（小・中学生専門委員会との連携）
3. NTS との連携
4. 大学における指導者養成の拡充

3. 競技運営に関する事業

【基本方針】

1. 日本協会主催、共催大会及び国際大会の管理運営にあたる。
2. 社会人連盟の進展を図る。
3. 日本選手権構想を具体化する。
4. 日本体育協会主導でなされている国体改革案に、ハンドボール協会の意見を反映させる。
5. 競技用具、検定制度を充実させる。

【重点施策】

1. 大会開催マニュアル、競技運営マニュアルの改訂、充実を図る。
2. 競技役員の資質向上を図るため、競技役員講習会を開催する。
3. 社会人連盟の業務を推進する。
4. 協会内の国体改革の意見をまとめ、日本体育協会の改革案に協会の意見を反映させる。
5. 競技用具の改良、開発を図り、検定制度を充実させる。

4. 競技規則(審判)に関する事業

【基本方針】

1. レフェリーアカデミーの実質的な運用
 - (1) JHA レフェリーコース・A/B 級公認審判員審査会との関係と体系化を図る。
 - (2) 全日本学生連盟との関係と体系化の強化を図る。

- (3) NTS・JHA ジュニアアカデミーとの関係を図る。
- 2 . トップレフェリーの資質向上および育成
 - (1) レフェリー育成事業の実施および充実に努める。
 - (2) トップレフェリー研修会を開催する。
 - (3) 各カテゴリーの代表チーム合宿に極力参加する。
 - (4) 日本リーグを吹笛できる若いレフェリーを育成する。
- 3 . 競技規則の正しい運用
 - (1) 「審判員の目標」を徹底させる。
 - (2) 国際事情の分析および伝達を迅速に行う。
 - (3) 競技規則必携および DVD(解説書)を発行する。
- 4 . IHF レフェリー講習会への参加

【重点施策】

- 1 . レフェリーアカデミーの推進
 - 日本リーグ、社会人、大学、高校、中学等の各連盟にご理解とご協力を得ながらレフェリーアカデミーをさらに体系化する。
 - 各全国大会においてレフェリーアカデミー生が吹笛する機会を設定する。
- 2 . レフェリー講習会の内容充実と競技規則の正しい運用
 - レフェリーのみならずトレーナー、選手に正しいルールを理解してもらうことが必要であり、各地区のレフェリー講習会にトレーナー、選手の参加を働きかける。
- 3 . IHF レフェリー講習会への参加準備
 - コンチネンタルレフェリーの育成と併せ、国内レフェリーにも最新の国際情報を提供する。
- 4 . 選手同様に審判員期日内登録の徹底
- 5 . レフェリーアカデミーを卒業したレフェリーの積極的な起用と女子レフェリーの育成および全国大会へのノミネート

5. 総務に関する事業

【基本方針】

新公益法人制度の 2012 年度移行に向け具体的活動を進めると共に、円滑な事業執行を行う為の組織と事務局の整備を行い、総務委員会案件はもとより、他部門とも連携強化を図り、事業進捗のスピード化を図る。

【重点施策】

- 1 . 新公益法人制度の 2012 年度移行に向けた対応
- 2 . 登録業務の簡素化、スピード化に向けたシステム変更
- 3 . 事業推進最適化に向けた組織と事務局の整備
- 4 . 環境保全活動の実践活動の継続

5. 個人情報保護法の遵守と徹底

6. 国際に関する事業

【基本方針】

1. 世界各国のハンドボール連盟との連携を図り国際貢献に努める。
2. 日本ハンドボール協会および各連盟、チームなどへの国際的活動支援を行う。
3. 国際大会等の支援（連絡・交渉・情報収集）を行う。
4. 国際会議への参加と支援を行う。

【重点施策】

1. IHF・AHF・EAHF 総会出席とその連携
* IHF 管理のもと、公平な運営と公平なジャッジメント、国際移籍問題の検討
2. 各国連盟とのレターのやり取り強化
3. レフェリー・テクニカルデレゲートのサポート
4. 日本代表チームなどの海外国際大会の事務的なサポート
5. 国際会議の開催と支援
6. 外国の情報収集とその活用
7. 海外移籍の事務的サポート
8. 次世代の国際担当者の発掘育成

7. 財務・会計に関する事業

【基本方針】

平成 23 年度も財政状況を取り巻く環境は非常に厳しく、収入源を見据えた予算執行を確実に実行しなければならない。収入面においては、マーケティング委員会を中心に、各委員会でも更に積極的な財源確保に取り組む必要がある。また各種助成金についても、今まで以上の有効活用を図る必要がある。支出面においても、集中と選択を念頭におき、効率の良い事業運営を推進して行かなければならない。

【重点施策】

1. 適正な予算配分と管理
2. マーケティング委員会及び各委員会を中心とした各種運営費の積極的な財源確保
3. 各種助成金の有効活用

8. 広報に関する事業

広報事業

【基本方針】

1. ハンドボール注目度アップ、バリューアップに繋がる情報の発信を図る。
2. インターネット情報の充実・拡大を図る。
3. マスコミとの交流を拡大する。
4. 協会事業の周知徹底を図る。
5. 協会広報システムを構築し、スムーズな運営を図る。
6. 記録整備のため大会撮影を積極的に行う。

【重点施策】

1. ホームページの充実
2. マスメディアへの積極的情報発信
 - ・プレスリリース・記者発表・記者会見・定期懇談会の実施、回数アップ
3. インターネットと機関誌の連携強化、整備効率化
4. トップリーグ連携機構との連携活動
5. 過去の記録のデータベース化
6. 組織の充実（人材確保および担当者の複数化・役割分担）
7. 企画、マーケティングとの連携によるバリューアップ活動の推進

インターネット

【基本方針】

1. 日本協会より発信すべきハンドボール情報を、インターネットを通じて一般の愛好者へタイムリーに発信する。
2. インターネットを活用した情報提供の充実を図るとともに、作業の効率化・スピードアップを図る。
3. 新たな情報発信・円滑な運用のための体制づくりを確立する。
4. ウェブページのデザイン等を更新する。

【重点施策】

1. 日本協会ホームページの充実
 - (1) ウェブサイトのリニューアルを検討実施する。
 - (2) 代表チームの情報発信の内容充実を図る。
 - (3) 試合結果等の情報発信のスピードアップと内容の充実を図る。
 - (4) 試合結果速報用掲示板を運用する。
 - (5) 新たな情報発信方法の検討と試行を行う。
2. ホームページ等、円滑な運用のための体制づくり
 - ・より良いシステムを検討し、人材の補強等を考える。

9. 機関誌発行に関する事業

【基本方針】

機関誌発行を通じ、都道府県協会・各連盟等日本協会組織全体の情報共有化を図る。更には活動履歴の保管性を提供し、ハンドボールの指導・普及等の活動関係者に様々な関連情報を提供することにより、ハンドボール界の一層の発展に寄与する。

【重点施策】

1. 施策方針・理事会・各委員会組織からの情報発信の場として、更に、都道府県協会からの情報発信の場として、機関誌の効果的な利用を追及する。
2. オリンピックアジア予選に向けての企画記事として一定の枠を確保し、自らの取材による記事掲載を推進する。
3. インターネット情報との密接な連携を図り、相互の情報の質を高めることで掲載内容の充実を図る。
4. 大会報告記事では、単に報告にと留まらず大会にまつわる様々な状況など、大会周辺の様子にも着目した掲載を図る。
5. 機関誌のあり方・掲載内容については適宜見直しを図り、常に機関誌の役割と特徴を意識した運営に努める（23年度も年間9回の発刊とする）。

10. 企画に関する事業

【基本方針】

1. 日本ハンドボール協会の現状分析を行い、中期的視点で課題・問題点を抽出し方向性を示す。
2. 各本部、各プロジェクトの連携を図り、統合して活動できる環境を整える。

【重点施策】

1. 最大目標の強化の充実・整備(奨学金制度・強化システム・日本リーグ連携)
2. 日韓定期戦の常設
3. ジャパンカップ 2011 の開催実施
4. 競技者育成技術委員会の充実
5. 社会人連盟の設立に伴う、日本ハンドボール協会の基盤の充実
6. 創立 75 周年記念事業を計画立案
7. 事務局業務の整備充実

11. マーケティングに関する事業

【基本方針】

ハンドボールのバリューアップを図る為に日本協会が行う施策を統括・立案・調整を行い、日本協会の大きな柱であるマーケティング収入の確保を図る。そのために、新しい価値の創出を図り実施に移す。

【重点施策】

1. マーケティング収入目標 2,500 万円
 - (1) 協賛金(大会事業、オフィシャルスポンサー)
 - (2) ナショナルユニフォーム広告他
 - (3) 物品販売、その他
2. オフィシャルスポンサー、オフィシャルサプライヤーの確保と拡大
3. 既協賛企業はもとより新規協賛企業の開拓拡大
4. 各種イベントの企画
5. オリジナルグッズ、DVD 他の企画・販売
6. 協会主催大会のマーケティング活動の指導・運営と協賛パートナーの拡大
7. JOC、トップリグ連携機構との連携・協力による、マーケティング力の向上

12. 日本リーグに関する事業

【基本方針】

1. リーグ戦の活性化とレベルアップを図り、東アジア諸国との交流を通じ、国際競技力向上に寄与する。
2. 地域と共に発展する日本リーグを目指す。
3. ハンドボール普及活動へ積極的に参加する。
4. 日本リーグ中期ビジョンを具体化する。
5. メディア対策を更に充実させる。

【重点施策】

1. 日本リーグ参加チーム拡大のため、クラブチームの指導・育成
2. リーグ加盟条件の見直し
3. チャレンジディビジョンの充実、拡大
4. ホームゲームの充実と地域との連携強化
(開催地責任者・GM研修会の実施)
5. 試合開催地におけるハンドボール教室の積極的開催
6. トップコーチ、トップフェリー育成のための研修会実施
7. 新たなファンサービスの開発
8. 東アジアクラブ選手権のグレードアップ

- 9．スポンサー企業へのサービス充実
- 10．積極的なメディア対策の実施
（プレスリリース、話題提供、情報交換会の実施）
- 11．日本トップリーグ連携機構諸事業への協力と他競技との連携

13. 『がんばれ 20 万人会』サポート会員に関する事業

【基本方針】

「ハンドボール界総力をあげての日本代表応援」「ハンドボールのバリューアップ」という本来の目的を踏まえ、サポート会の拡大、拡充を図ると共に、各連盟、各都道府県協会との連携を図り、20 万人を目指す。

【重点施策】

- 1．各連盟、各都道府県協会との連携強化による会員加入促進
- 2．会員への情報、サービスの拡充